

五月の子どもたち

春の陽光にさくらが映え、花壇に見られる色さまざまの花の数々、南の風がそれらを一括して包み込んだ中で、子どもたちのスタート

がきられ一ヶ月が過ぎました。新しい環境の中で希望にあふれ、緊張感を持って頑張ってきた子どもたちにも疲労が見え始める五月です。四月当初から「頑張らなくちゃね」と周囲から自覚を促され、少々緊張して生活してきた子どもたちは疲れがたまっています。休みを利用して心をリラックスさせ活力を養いましょう。

また、一ヶ月の生活や人間関係から、あるいは以前の経過から不安定な心状態にある子どもたち大きな悩みを抱えて閉じこもってしまう子どもや不登校を始める子どもが出てきますが、温かい気持ちで受容し理解してあげたいものです。「今こうして自分の世界に閉じこもっているのは、その子どもなりにそうでもないではないけれど、心の中の事情があるからだ」という肯定的な見方や共感的に理解しようとする態度が大人に必要でしょう。そして、そのような大人は、子どもが見ているように見、感じているように感じようと努め、大人が見、感じたことを言葉で伝えることができます。子どもたちは、このように自分の味方になっ

て、自分の気持ちや思いを分かって、自分と異なる大人を決して避けるようにはしません。

子どもたちは「このように大人は、「こうあるべきだ」と理屈で迫ってくるのではないので安心できる。大抵のことは話せると子どもたちには、それぞれの子どもにしかわからない固有の悩みがあります。大人がその子どものつらい気持ちや思いに寄り添って



理解しようとせず、一般的概念や大人の持つ見方・感じ方・考え方の枠組みで解釈し理解しようとする、子どもの気持ちや思いと大人の受けとめかたの間にズレが生じてしまいます。このような場合、子どもは分かってももらえない苛立ちや空しさを心に抱き、しだいに大人から遠ざかっていきます。また、子どもは、大人が自分とどのような気持ちや思いをもっているかを敏感に感じとろうとしています。自分に対する批判的な構

えを感じると心の扉を閉ざし、大人との接触を避けるようにもなります。

子どもの大人に対する信頼感、ありのままの自分を見せても、決して駄目な人間として大人は自分を見ることはないという確信、安心感に支えられています。子どもの心理状態が不安定でゆとりがないときには、大人のささいな言動にも敏感に反応し、傷ついてしまうこともあります。

一度信頼関係がくずれてしまうと修復が難しくなってしまうので、子どもも大人も互いに緊張感がなく、お互いにリラックスできるゆったりとした過ごし方を工夫したいものです。

また、目の前の子どもの「今ここの気持ち」を感じとることも極めて重要です。早く解決することを願わない大人はいません。

しかし、大人の気持ちに焦りがあったり、はやく解決させたいという思いが強いと大人の思う方向に子どもを引っ張ったり、言い聞かせたりしまいがちになります。このような大人の関わりは、子どもを追い詰める情緒的混乱をますます強めることにもなります。

周りの大人が苦しんでいる子どもを受容できるようにすると、子どもは自らの問題を自分自身の力で乗り越えていきますが、大人はせきたてずに見守っていききたいものです。

第二十六回ふるさとまつり

今年、第二十六回を迎える「ふるさとまつり」を五月の第三日曜日に開催します。午前中は、自分の好きな各々に（コーナー）企画に自由に参加し、午後から、大勢の人と一緒に、広い運動場で思いきり体を動かして、工作やあそびを通じて楽しい一日を過ごします。日頃できない体験の中から、新しい自分を見つけませんか。ご家族そろって、お弁当を持って遊びにいらしてください。

日時 5月21日
午前9時～午後4時頃
受付 午前8時30分
場所 都留文科大学およびその周辺
連絡先 藤原 公(43)9884
主催 第26回ふるさとまつり実行委員会
※雨が降っても開催します。

第1回ふるさと探検隊



ふるさとの宝を訪ねる「ふるさと探検隊」を開催します。

第一回は、宝地区を対象に、宝鉱山跡、宝の山ふれあいの里、広教寺などを訪ねるコースです。

- 日時 5月13日 午前9時20分集合
- 集合場所 宝小学校校庭
- 持ち物 弁当、筆記用具、バス代
- 申込方法 電話でお申し込みください。
- 対象者 小学生以上
- 申込・問合せ先 ふるさと探検隊実行委員会
長田 昇 ☎(43)4631

